

事業 I 令和 6 年度 概要

I 音楽教育支援活動

足立区内のこども園、小学校、中学校といった教育現場を対象として、東京藝術大学の卒業生を中心とした演奏家を派遣し、訪問型の音楽教育支援活動を行っている。子どもたちの文化芸術に対する関心を高め、豊かで健全な育ちに寄与することを目的としている。

事業内容

- 洋楽／邦楽の音楽鑑賞会
- 音楽科授業等の補助
- 金管バンド・吹奏楽の演奏指導
- 教員研修会

研究分担者

市川 恵（音楽学部准教授）、古賀 慎治（音楽学部教授）、藤原 道山（音楽学部准教授）

〈邦楽の音楽鑑賞会 p.11〉



〈洋楽の音楽鑑賞会 p.12〉



〈音楽科授業等の補助 邦楽 p.11・洋楽 p.12〉



〈部活動指導補助 p.13〉



〈映像コンテンツ p.14〉



〈教員研修会 p.15〉



I . 音樂教育支援活動

目的・概要／令和6年度の成果と課題

実施の目的と概要

「音楽教育支援活動」の目的は、「足立区立の小学校や中学校、こども園等において音楽教育支援を行うことを通じて、音楽技能の向上と文化芸術への関心を高め、子どもたちの豊で健全な育ちに寄与すること」である。

具体的には、足立区立のこども園、小学校、中学校を対象に、東京藝術大学を卒業した若手演奏家や大学院生などを派遣し、各現場の先生方と連携を取りながら、音楽鑑賞会やワークショップ、部活動や課外活動における演奏指導、音楽科授業の指導補助を実施している。また、音楽科教員を対象とする教員研修会も開催するなど、音楽教育に関するさまざまな支援活動を展開している。

2024年度は、前年度と同様「対面による実施」と「映像コンテンツの利用」の二本立てでプロジェクトを実施した。活動内容の詳細については各項目を参照されたい。本事業では、管楽器、弦楽器、打楽器の各コーディネーターを中心に、各学校との連携のもと、音楽鑑賞会のプログラミングや、演奏指導や授業補助内容の擦り合わせが行われている。今年度は、この事業に習熟した演奏家の他にも、新たに演奏指導に意欲のある大学院生や学部生も加わり、少しずつ新鮮なメンバーを拡充しながら展開している。

なお、長年にわたり本事業をご牽引くださった佐野靖氏（音楽学部名誉教授）に代わり、今年度より、市川恵（音楽学部准教授、音楽教育）、古賀慎治（音楽学部教授、管打楽・トロンボーン）、藤原道山（音楽学部准教授、邦楽・尺八都山流）の3名の教員が研究分担者となり、本事業を進めている。

また、今年度、本事業をコーディネートしてくれたアートリエゾンセンターのスタッフは、中村栄宏（教育研究助手）、長谷川将也（教育研究助手）の2名である。

「対面実施」及び「映像コンテンツによる実施」の内訳、参加者数は以下のとおりである。

■対面(41件) [参加した児童・生徒・教員等の総数:5,466名]

▼邦楽系事業 [参加:2,140名]	鑑賞会	6校（小:6校）
	授業等補助	3校（小:2校、中:1校）
▼洋楽系事業 [参加:2,646名]	鑑賞会	11校（小:8校、中:1校、子:2園）
	授業等補助	1校（小:1校）
▼演奏指導 [参加:630名]		19校（小:11校、中:8校）
▼教員研修 [参加:50名]	和楽器の研修会	1件（小学校音楽教員）

■映像コンテンツ(4校・7件) [参加した児童・生徒・教員等の総数:1,456名]

▼鑑賞 [対象:821名]	4校（小:3校、中:1校）
▼授業等補助 [対象:607名]	2校（小:2校）
▼演奏指導 [対象:28名]	1校（中:1校）

[凡例]小:小学校 中:中学校 子:こども園

活動内容の成果と課題

2024年度の活動内容の成果と課題を記す。まず成果としては、「演奏及び指導の充実」と「新たな事務手続きシステムの構築」の二点を挙げる。

一点目の「演奏及び指導の充実」に関しては、この事業ならではの演奏空間づくりや、音を介した双方向的な関わりを大切にした指導がなされていることである。

例えば、音楽鑑賞会は体育館で行われることが多いが、この事業ではあえて舞台上ではなく、児童・生徒が着席している床面側で、且つ至近距離で楽器がセッティングされる。これは、子どもたちが間近で音色の美しさや音の迫力を味わえると同時に、演奏家の個々の息遣いやアンサンブルでの目線のやり取りまで感じ取れるように意図した配置である。また、演奏家が児童のまわりを歩きながら演奏するなど、演奏者側と観客側が一体となるような工夫も取り入れられている。一般的なコンサートホールでは困難である、このような双方向的な演奏空間を作り出すことによって、子どもたちは体全体で音楽を感じ、演奏者たちをより身近な存在と捉えることができるだろう。

プログラミングや進行の仕方に関しては、事前にアンケートで希望を募った楽曲を取り入れたり、各楽器の特徴を説明したあとに、その楽器が活躍する楽曲を演奏したりと、聴きどころを明確にしながら、各曲の魅力を存分に伝えている。また、ある小学校では音楽授業で管楽器の音色について学習した上で、金管四重奏のコンサートを聴くという機会が設定されていた。やはり子どもたちの興味や関心は非常に高く、1時間程のコンサートに集中して耳を傾けていた。このように、音楽授業と音楽鑑賞会を有機的に関連付けることによって、一回限りのイベントではなく、豊かな音楽の学びとして子どもたちのなかに残っていくだろう。

以上のような充実したプログラムは、一朝一夕で完成するものではない。この事業に習熟した演奏家たちによって、ある種の「ノウハウ」が蓄積されてきた証であり、大きな成果といえる。今年度から新たにこのプロジェクトに参加した在校生もいるが、先輩たちの姿から学ぶことも多いという。今後も優れた点は継承しつつ、新たな発想を加えながら継続的に革新していくことが求められる。

二点目は、本事業における「新たな事務手続きシステムの構築」である。本事業は、年間をとおして膨大な数の実施数となるため、そのための事務作業も非常に煩雑となることが課題であった。

例えば、学校への連絡やアンケートの回収の他、複数人の演奏家を派遣する場合には各演奏家への連絡や諸々の手続き書類の受け渡し等が発生する。演奏や指導の中身もさることながら、それらの前提となる諸々の手続きを正確に行なっていくことで、安定した活動が継続できることは言うまでもない。そこで、今年度はこのような細かな実施状況をGoogleスプレッドシートで管理、共有できる体制を整えた。これにより、教育研究助手及び研究分担者の教員が実施状況を逐一把握できるようになり、人的ミスが最小限に抑えられるようになった。

また、派遣希望が重なる夏から秋にかけてのコンクール前の時期は、演奏家のコーディネートや各学校

との調整に大変苦慮していた。さらに、急な体調不良等のやむを得ない事情による日程変更も課題として挙がっていた。これらの点に関しても、学校からの希望と演奏家のスケジュールの擦り合わせをスムーズに行うシステムを構築した。これにより、迅速かつ臨機応変に日程調整を行うことが可能となった。

これらの業務の円滑化、効率化に関しては、教育研究助手である長谷川氏、中村氏の多大なる尽力のおかげである。

課題としては、次の二点を挙げたい。

一点目は、本プロジェクトへの参加校、特に中学校の参加校を増やしていくことである。昨年度の参加校数は、コロナ禍以前と同等の水準まで回復したものの、今年度は部活動・課外活動での演奏指導以外、同数あるいは減少傾向にあった。そのため、来年度に向けては、より広報に力を入れ、自治体とも連携しながらこの事業の魅力の発信に努めたい。

具体的には、これまでのプロジェクトの様子をまとめた動画を、ホームページなどをとおして発信していく。また、申込書にもその動画を参照できるようにURLを貼り付け、その動画を見ることによって、先生方が活動を具体的にイメージし、各パッケージを活用しやすくなるよう工夫する。先生方には、年間指導

計画や各学校のカリキュラムのなかにうまくこの事業を落とし込み、児童・生徒の学びの充実にぜひ活用してもらいたいと考えている。

二点目は、映像コンテンツの活用方法の見直しと新たな開発である。映像コンテンツに関しては、コロナ禍において多種多様なコンテンツが作成され、何度も反復して視聴できるというメリットから教育効果も高いことがすでに報告されている。しかし、今年度、その利用数は4校に留まった。映像コンテンツは、対面実施の有無にかかわらず利用することができ、年間で4種類まで選択できるという許容範囲の広いものであるが、あまり活用されていないことは残念である。そこで、映像コンテンツの一部をサンプルとしてホームページ上で公開するなど、映像コンテンツの活用方法を具体的にイメージできるよう工夫し、利用率を向上させていきたい。ただ、そのためには著作権の問題や出演者の許可等、いくつかの手続きを踏む必要がある。

また、以前より要望のあった各楽器のメンテナンス、各楽器の奏法や発声・歌い方等に関するコンテンツはまだ開発の余地が残されているため、早急に着手する所存である。

(文責 市川恵)

【音楽教育支援活動 実施一覧】

■対面での実施 鑑賞会・授業等補助

No.	学校名	パッケージ・内容	実施日	対象	人数
1	東伊興小学校	B リコーダー四重奏	06/14	3年生	94
2	東渕江小学校	B 金管五重奏	07/11	3,4,5,6年生	393
3	西新井第一小学校	D 三味線の指導	07/11	5年生	58
4	中島根小学校	D 箏の指導	09/10	5,6年生	92
5	亀田小学校	A 尺八、リコーダーデュオ	09/19	3,4,5,6年生	459
6	竹の塚中学校	D 三味線の指導	09/30	3年生	38
7	桜花小学校	B 弦楽四重奏	09/30	3,4,5,6年生	381
8	大谷田小学校	D リコーダー合奏の指導	10/15	5年生	88
9	東栗原小学校	B サックス四重奏	10/16	全校	395
10	渕江第一小学校	B 打楽器アンサンブル	10/16	4,5年生	193
11	鹿浜第一小学校	A 尺八、箏デュオ	10/16	3,4,5,6年生	210
12	栗原小学校	A 尺八、リコーダー、ピアノトリオ	10/17	全校	435
13	弘道第一小学校	A 尺八、リコーダー、ピアノトリオ	10/17	全校	377
14	元宿こども園	B 打楽器アンサンブル	10/28	3,4,5歳児	35
15	加平小学校	B 打楽器アンサンブル	10/29	3,4,5,6年生	426
16	栗島小学校	A 尺八、リコーダー、ピアノトリオ	10/29	全校	353
17	北三谷小学校	B 弦楽四重奏	11/14	全校	260
18	青井小学校	B 打楽器アンサンブル	01/14	5,6年生	117
19	西新井小学校	B 金管五重奏	01/20	3,4年生	168
20	入谷中学校	B 弦楽四重奏	01/28	1,2,3年生	96
21	足立入谷小学校	A 尺八、箏デュオ	01/29	全校	118

■対面での実施 演奏指導

No.	学校名	実施期間		実施回数	対象	人数
		(自)	(至)			
1	加賀中学校	06/15	07/20	15	吹奏楽部	60
2	千寿小学校	06/15	07/02	15	金管バンド	30
3	第一中学校	06/15	07/20	15	吹奏楽部	31
4	足立小学校	06/18	07/16	15	金管バンド	19
5	渕江中学校	06/20	07/20	12	吹奏楽部	26
6	第十四中学校	06/22	07/26	6	吹奏楽部	33
7	伊興小学校	06/24	09/19	15	吹奏楽部	20
8	中川小学校	06/26	07/17	2	金管バンド	11
9	東島根中学校	06/29	07/13	15	吹奏楽部	19
10	西新井中学校	06/29	07/27	15	吹奏楽部	49
11	江北小学校	07/02	08/08	12	金管バンド	26
12	伊興中学校	07/03	10/12	15	吹奏楽部	7
13	舎人小学校	07/22	07/25	12	金管バンド	41
14	興本扇学園	07/22	08/01	15	吹奏楽部	16
15	千寿第八小学校	07/23	08/20	15	金管バンド	58
16	千寿常東小学校	07/23	07/30	14	金管バンド	42
17	梅島第二小学校	09/09	02/14	15	金管バンド	38
18	梅島第一小学校	09/10	11/12	15	金管バンド	30

■映像コンテンツによる実施

No.	学校名	内容			対象	人数
		演奏指導	鑑賞	授業等補助		
1	千寿小学校	○	○	○	4, 5, 6年生	203
2	西新井小学校	○	○	○	吹奏楽部	404
3	西新井第一小学校	○	○	○	6年生	186
4	東島根中学校	○	○	○	3, 4, 5, 6年生	28

■教員研修会

学校名	プラン	実施日時	対象	人数
小学校音楽教員研修	和楽器の指導法	07/29	足立区立小学校の音楽教員	50

邦楽系事業 (鑑賞会・授業等の補助)

パッケージA：邦楽の鑑賞

パッケージA：「邦楽の鑑賞」は、2023年度に新設したパッケージを継続して取り入れ、以下の5つの区分にて募集を行い、6校にて事業を実施した。

A-1 箏・尺八	[小学校2校]
A-2 長唄・長唄三味線・日本舞踊	[実施なし]
A-3 民謡・祭りの音楽	[実施なし]
A-4 雅楽・能楽	[実施なし]
A-5 和楽器と洋楽器のコラボレーション	[小学校4校]

A-1 箏・尺八では、各校で公演コンセプトの異なるプログラムを実施した。1校目では、「箏」「十七絃」「尺八」の三つの楽器によるアンサンブルを行い、和楽器の持つ器楽的可能性に焦点を当てた。古典音楽から現代音楽、ポップスアレンジ楽曲などが演奏された。2校目では、「箏」と「尺八」のデュオによる公演を実施し、日本音楽の持つ「音階」の魅力に焦点を当てた。古典曲、宮城道雄作品、20世紀の現代邦楽作品、日本古謡「さくらさくら」のアレンジ楽曲などが演奏され、箏の伝統調弦や尺八の基本音階により身近に、自然に触れることができるプログラムが構成された。

A-5 和楽器と洋楽器のコラボレーションでは、昨年に引き続き、「尺八」と「リコーダー」「ピアノ」によるトリオ編成で公演が実施された。学校教育で導入されている「リコーダー」や「ピアノ」と、普段接する機会が少ない「尺八」を組み合わせた珍しい編成の公演には、多くの児童・生徒が興味を示した。このパッケージは特に人気高く、前年度に他校で実施した際の評判が教員の間で伝わり、それを契機に希望を申し出る学校が複数あった。「尺八」と「リコーダー」の音色や機能の違いを的確に表現したオリジナル作品は特に反応が良く、児童・生徒は高い集中力で聴き入っていた。新設から2年間で多くの希望を受け、次年度以降も質の高い音楽を提供できるよう、新たなパートナーの拡充にも注力していきたい。

学校教育の現場では、和楽器の生演奏に触れる機会はまだ多くないと感じている。本連携事業の大きな特徴は、プロによる質の高い演奏を間近で体験できる点である。来年度以降も、より発展的な鑑賞パッケージを提示できるよう、さまざまな企画を検討していきたい。

(文責 長谷川将也)

授業等補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、邦楽系事業として「D-5 和楽器指導」の1つの区分で募集が行われた。

本年度は3校からの希望を受け、「三味線の指導」「箏の指導」など、例年通り幅広い要望があった。

いずれの学校も、音楽の授業に和楽器の実技を積極的に取り入れており、センターが提供するパッケージを通常の授業の発展的な取り組みとして活用している。ここ数年、同じ学校からの希望が続いている、センターから派遣する演奏家も毎年同じメンバーに依頼しているため、指導内容の安定化が図られている。

各校での授業は、「楽器の実技指導」に加えて、「楽器紹介」や「作品鑑賞」といった大きく3つのパートに分けて実施しているが、学校からの要望もあり、例年「楽器体験」に多くの時間を費やしている。

実技指導と作品鑑賞をセットにすることにより、楽器や作品に対する理解が深まり、音楽や楽器の本質をより的確に伝えることができていると感じている。

パッケージD「授業等の補助」の実施校については、現状、楽器を自校で用意できる学校に限って応募を受け付けている。このため、希望校数に偏りが見られるが、今後、より発展的な内容を実施するためには、楽器の所有状況に関係なく実施できるシステムの検討も必要であると考える。

(文責 長谷川将也)

アンケートより

- ピアノ、リコーダー、尺八の音色がとても綺麗でした。リコーダー、尺八がさまざまな種類を使い分けていて、聴くだけでなく、見ても楽しかったです。尺八でさまざまな音を出していたのが印象的でした。リコーダーやピアノのテンポの変化や指さばきがすごかったです。[A-5 教員 女性]
- おこととしゃく八を今まで聞くのが初めてだったのですごいと思いました。しゃく八のことを知らなかったので、良い音でびっくりしました。夜にかけるの足を使うテクニックがおもしろかったです。これからもがんばってください。[A-1 小4 女子]
- 日本の音楽は、普段なかなか馴染みがなく、難しく感じる児童もいると思います。今日の体験で「子供の時に三味線を弾いたことがある」「日本の音楽を生で聴いたことがある」ということは、一生の宝物になると感じました。[D-5 教員 女性]

洋楽系事業 (鑑賞会・授業等の補助)

パッケージB：洋楽の鑑賞会

洋楽の鑑賞会では、以下の7つの区分にて募集を行い、11校にて事業を実施した。

B-1：ピアノ	[実施なし]
B-2：声楽	[実施なし]
B-3：弦楽器	[小学校2校、中学校1校]
B-4：木管楽器	[小学校1校]
B-5：金管楽器	[小学校2校]
B-6：打楽器	[こども園1校、小学校3校]
B-7：古楽	[小学校1校]

事前アンケートでは、専門家によるレベルの高い生演奏を希望する声が多く、これまでの鑑賞会が学校の要望する水準を超えていたことが窺える。実施に際しては、例年通り各カテゴリのコーディネーターに依頼を行い、内容を一任してプログラムを決定した。学校アウトリーチの経験が豊富な奏者たちが担当したため、実施後のアンケートでも学校からの評判が高かった。特に、子どもたちにとってはプロフェッショナルな演奏に触れる貴重な機会となり、音楽の楽しさや奥深さを感じてもらうことができた。

「B-5 金管楽器」では金管五重奏を実施した。各楽器の音色をより明確に知ってもらうため、事前の説明に加えて、各楽器が前に出てソロ的に演奏したり、子どもたちの近くで演奏するなどの工夫がなされた。演奏後には、子どもたちから音楽に対する興味が一層深まったというフィードバックもあり、今後の音楽学習に対するモチベーションを高めるきっかけとなつた。

「B-7 古楽」では、学校からの希望により、リコーダーを取り入れたプログラムを実施した。リコーダーを用いた4名のアンサンブルでは、大小異なる20本以上の楽器を使用し、古楽とポピュラー音楽を融合させたプログラムを提供した。さまざまなアンサンブル形態を取り入れることで、児童たちにとって敷居の高い古楽を身近に感じてもらい、音楽の歴史や多様性に触れる機会となつた。

今年度の洋楽鑑賞会は、各学校の要望に応じた質の高いプログラムを提供し、児童たちにとって貴重な音楽体験となつた。専門家による演奏を通じて、音楽の楽しさや奥深さを感じてもらい、また、普段なかなか触れることがない楽器やジャンルに親しむことができた。このような鑑賞会を通じて、生徒たちの音楽に対する興味や理解が深まつたことは、非常に喜ばしい成果であった。

来年度も、今年度と同様に、質の高いコンサートを提供し、各学校のニーズに応じたプログラムを展開したいと考えている。音楽が持つ力を最大限に活かし、

生徒たちが音楽を通して感性を豊かにし、より多くの学びを得られるように取り組んでいく所存である。来年度も引き続き、多くの学校と連携し、素晴らしい音楽体験を提供できるよう努めていく。

(文責 中村栄宏)

アンケートより

- ・ チューバがあんなに重いとは知らなかつた。どんな練習をしてどうしてあんなに上手なのか教えてほしい。きんかんがつきをふくときのコツを教えてほしい。[B-6 小3女子]
- ・ 演奏曲を1月の授業で学習していた児童にとって、今回生の演奏に触れ、楽器の響きを感じられたことはとても貴重な経験になったと思います。児童の興味津々な表情が印象的でした。[B-6 教員]

パッケージD：授業等の補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、洋楽系事業としては以下の4つの区分で募集を行つた結果、本年度は1校の実施であった。

D-1：歌唱・合唱指導	[実施無し]
D-2：器楽指導	[小学校1校]
D-3：創作指導	[実施無し]
D-4：鑑賞指導	[実施無し]

D-2：校内音楽発表会で学年全体のリコーダー合奏を行うための、パッヘルベルの「カノン」の授業への補助希望があつた。4名のリコーダー演奏者を派遣し、1クラスに2人の講師を配置した。講師たちは、合奏を行う上での注意点や意識すべきポイント、またリコーダーの基本的な演奏方法について詳細に指導した。その結果、生徒たちの演奏技術が向上し、合奏全体のクオリティが改善された。特に、現役の演奏家が直接指導することで、技術的なアドバイスだけでなく、演奏の意図や感情表現に関する深い理解も得られ、演奏に対する意識が高まつた。演奏家自身の経験や視点を共有することが、生徒たちにとって非常に有益であり、指導が一層効果的だったと言える。このような機会は非常に貴重であり、来年度以降も継続して実施されることが望ましい。

(文責 中村栄宏)

アンケートより

- ・ 難しい部分は少しづつ区切って練習していただきたので、「できそう」と感じられる子が増えたように思う。きれいな音色に感動している子が多かったです。[D-2 教員]

金管バンド・吹奏楽の演奏指導

パッケージC：金管バンド・吹奏楽の演奏指導

「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」は、足立区の中学校の吹奏楽部や金管バンドクラブに対し、本学の卒業生および在学生を指導者として派遣するパッケージである。指導内容は、楽器演奏の基礎、楽器の扱い方、楽曲の演奏法など、より良い音楽活動を支援するために幅広く行われる。昨年度までの指導スタッフに加え、今年度は演奏指導に意欲のある大学院生や学部生数名が新たに参加し、昨年同様に多くの依頼に対応できる体制を整えた。

指導内容は【C-1：楽器別の演奏指導】と【C-2：合奏指導】の二つに分かれており、回数内であれば併用も可能である。本年度の申し込みはすべてC-1で、指導対象校は18校（小学校：10校、中学校：7校、一貫校：1校）だった。これは昨年度の17校とほぼ同数だ。各学校からの事前アンケートに基づき、希望する指導楽器を元に、講師との日程調整を行い、レッスン日を決定した。今年度は1校あたり15回を上限として指導を行い、総計238回の指導が実施された。希望に応じて10種類以上の楽器講師が一度だけ指導に行ったり、3～4種類の楽器に絞って複数回のレッスンを行うなど、できる限り柔軟に指導プランを提供した。

年度初めに通年での実施が可能である旨を案内したが、例年通り、8月前後の吹奏楽コンクールに向けて指導の希望が集中した。昨年度と比較すると、夏季に指導希望が集中する傾向は緩和されたが、コンクール前の繁忙期には、同一の講師が1日に複数の学校へ訪問することもあった。しかし、木管、金管、打楽器の各コーディネーターの尽力により、問題なく学校への派遣が完了した。

指導内容については、全体的に基礎や基本を重視したいとの声が最も多く、特に入部したばかりの児童・生徒に対する指導が求められ、早期の実施希望が多く寄せられた。基礎指導に加え、楽器を始めたばかりの生徒には楽器の扱い方に関する指導も求められたが、指導経験が豊富で優れた演奏家が担当しているため、柔軟に対応できた。また、夏のコンクール前には、課題曲や自由曲に対する集中的な指導が多く、パートごとに少人数での指導が行われ、各奏者の習熟度に合わせたレッスンが実施された。これにより、各学校の実情に応じたきめ細かい指導ができた。本年度からは、学校からの希望と講師のスケジュール調整のため、インターネットフォームを活用し始めた。その結果、従来のメール対応に比べ、日程調整が迅速に行えるよう

になり、この点は大きな成果だ。来年度もこのシステムを活用していきたいと考えている。今年度は、5月に全校に案内を発送し、昨年度と同様に6月中旬からの実施となった。また、アーティスト新法の施行により、来年度からは指導日時を明記した依頼書を事前に配布する必要がある。新型コロナウイルスやインフルエンザの流行により、やむを得ず日程変更が生じる可能性があるが、指導者と学校間での調整を迅速に行うことが今後の課題だ。

（文責 中村栄宏）

アンケートより

- ・ 半音の出し方を学びました。楽器のあらいかたをおしえてくれてありがとうございました！ [小4女子]
- ・ レッスンの後楽器を吹いたら高い音が出やすくなりました！教え方も丁寧でとてもわかりやすかったです！ありがとうございました！ [中2女子]
- ・ 呼吸の仕方や、持ち方を細かく教えてもらいました。他にも芯のある音の出し方、タンギング、スラーなど基礎的なものを教えてもらい、前と比べて成長したと感じました。 [中2女子]
- ・ とてもわかりやすく優しいレッスンをありがとうございました！暑く大変な中きてください、レッスンがとてもわかりやすく、とても楽しく面白く、気づいたら1時間半経っていてとても学びになりました。2回もきてください、ありがとうございました。 [中1男子]
- ・ 今回申し込んで本当に良かったと思います。やはりプロの先生方の音は児童にも「好きとおっている」「きれい」と伝わっておりました。来年度も申し込もうと思っております。 [教員]
- ・ 各生徒に合わせて必要な指導をしていただきとても助かりました。なんといっても模範演奏が聞けることが生徒たちにとって一番の経験だと思います。 [教員]

映像コンテンツ

今年度の映像コンテンツは、昨年度に引き続き「鑑賞」「授業等補助」「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」の3つの区分で申し込みを受け付けた。今年度の申し込み総数は4校（7件）であり、これまでの件数と比較して減少が見られた。

映像コンテンツは、当初2020年のパンデミックによる活動制限を受けて制作・提供されたものである。パンデミック以前に実施していた「鑑賞会」「授業等補助」「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」の対面活動を、映像コンテンツとして制作し、演奏家の派遣を伴わない連携事業の実施方法として広く活用されてきた。パンデミック後の提供数の推移は以下の通りである。

2020年度	36校
2021年度	19校
2022年度	14校
2023年度	11校
2024年度	4校

【映像コンテンツ一覧】

■邦楽の鑑賞
和楽器の演奏:箏・尺八①
和楽器の演奏:箏・尺八②
和楽器の演奏:津軽三味線
和楽器の演奏:江戸の祭囃子
和楽器の演奏:獅子舞
■洋楽の鑑賞
ピアノの演奏
声楽の演奏:テノール(独唱)
声楽の演奏:メゾソプラノ&バリトン(独唱・二重唱)
声楽の演奏:オペラ・オペレッタ セレクション(メゾソプラノ&バリトン)
声楽の演奏:声種の違いを感じ取ろう／声の重なりを楽しもう
声楽の演奏:日本のうたで四季を味わおう
弦楽器の演奏:弦楽四重奏
弦楽器の演奏:ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ／コントラバス
弦楽器の演奏:ヴァイオリン名曲選
弦楽器の演奏:ヴァイオリン ロマンティック名曲集
木管楽器の演奏:フルート(独奏・二重奏)
木管楽器の演奏:オーボエ／ファゴット
木管楽器の演奏:サクソフォーン
木管楽器の演奏:クラリネット
木管楽器の演奏:フルート／オーボエ／ピアノ 名曲集
金管楽器の演奏:金管五重奏
打楽器の演奏:鍵盤打楽器アンサンブル
打楽器の演奏:からだを使ったリズムアンサンブル
室内楽の演奏:物語と音楽
室内楽の演奏:踊りの音楽
口笛の演奏

■音楽科授業等の補助
歌唱のヒント:「ふるさと」を歌おう
器楽のヒント:リズムアンサンブル・小物打楽器
器楽のヒント:ピアノ／ヴァイオリン／チェロについて知ろう・聴こう
器楽のヒント:リコーダー
和楽器のヒント:箏
和楽器のヒント:和楽器ってなんだろう？
■金管バンド・吹奏楽の基礎レッスン
トランペット／コルネットの基礎レッスン
フレンチホルンの基礎レッスン
アルトホルンの基礎レッスン
トロンボーンの基礎レッスン
ユーフォニアムの基礎レッスン
チューバの基礎レッスン
打楽器の基礎レッスン
フルートの基礎レッスン
クラリネットの基礎レッスン
サクソフォーンの基礎レッスン
オーボエの基礎レッスン
ファゴットの基礎レッスン
コントラバスの基礎レッスン

緩やかではあるが、映像コンテンツの需要は提供開始以来、減少傾向にある。大きな要因としては、社会情勢の変化が挙げられるだろう。2023年にコロナウイルスに関するガイドラインが変更され、教育現場ではパンデミック以前のような活発な取り組みが可能となった。それに伴い、当センターの提供パッケージの一つである「対面実施」の件数が回復し、過去5年間では2023年度がピークとなり、「対面実施」の実施数はパンデミック以前に戻りつつある。

パンデミック下で有効な活動手段であった「映像コンテンツ」について、今後も学校への提供を継続するとともに、積極的な利用を促していく所存である。また、学校への提供に加え、当センターが保有するアーカイブとしての役割も果たしていく考えである。

(文責 長谷川将也)

教員研修会：和楽器の指導法と実技研修

日時：7月29日（月）12:00-17:00

会場：東京藝術大学千住キャンパス第3会議室、

第1演習室、第6講義室、第7講義室

講師：石本かおり（箏）、石森裕也（篠笛）、
長谷川将山（尺八）、山下靖喬（津軽三味線）

本年度の教員研修会は、2023年度に引き続き「和楽器」をテーマに、箏、津軽三味線、尺八、篠笛の4つの楽器に分かれた個別研修を実施した。

本研修会は例年、「鑑賞」「実践」「質疑応答」の3つのセクションに分けて実施しているが、和楽器が二年連続となった今回は、昨年度と同じ講師に依頼することができたため、これまでの内容を踏襲しつつ、より発展的な講習を行うことができた。

「鑑賞」セクションでは、箏と尺八による《春の海》、津軽三味線と篠笛による《魁》を上演し、楽器の音色や技術に加え、奏者の動きや息遣いを間近で感じもらうことができた。

「実践」セクションでは、受講者それぞれが4つの楽器から2つを選択し、1コマ40分のローテーション形式で研修を行った。参加教員は、プロの演奏家による実演を鑑賞した後、各楽器の講習を受けたが、「想像以上に難しい」「思ったような音がなかなか出ない」など、楽器の扱いに苦労している様子が見受けられた。特に管楽器の「尺八」や「篠笛」などは、教育現場で用いられる「リコーダー」との発音原理や楽器構造の違いに驚く声が多数聞かれた。

実践セクションで題材とした楽曲は次の通りである。

箏《六段の調》

津軽三味線《ソーラン節》

尺八《チューリップ》

篠笛《かごめかごめ》

いずれの楽曲も、各楽器の初步的な奏法を効果的に用いた作品であり、限られた時間内に十分な指導が行える選曲であった。初心者を対象とした講習においては、楽曲の選曲が非常に重要であると考えている。参加者の技量と楽曲の難易度のバランスをうまく取ることで、講師と参加者双方にとって有意義な講習が行えるのではないかと感じた。特に今回のようなグループ講習においては、選曲の重要性を強く実感した。また今回は、「箏」や「尺八」の講習時に、東京藝術大学の卒業生に補佐を依頼した。進度に差が出やすいグ

ループ講習に補佐を付けることで、より細やかな指導が行えたのではないかと思われる。

「質疑応答」セクションでは、「鑑賞」と「実践」のセクションを経て、さまざまな質問を受け付けた。以下に示すのは一例である。

Q. 尺八について、長さの違いが音に与える影響は

A. 使用した尺八は穴が5つしかないものであり、尺八の長さによって出る音が異なる。例えば、「〇寸だと、この音」というように、曲に適した音があり、演奏する曲ごとに効果的に吹ける尺八を選ぶことが求められる。曲によっては使用する尺八が指定されることもあるが、指定がない場合は演奏家が楽曲に最適な尺八を選択する。尺八の大きさにより音階が異なるため、その選択は非常に重要である。

Q. 学校授業では五線譜で書かれた曲を扱うことが多いが、「日本の音楽！」と感じるところはどのようなところか。

A. 日本の音楽の特徴は、指揮者がいない中で演奏されるため、拍子や間、呼吸が非常に重要である点にある。演奏者は感覚で息を合わせ、アイコンタクトを取りながら演奏することが求められる。箏の演奏では、練習を重ねて息を合わせることが大切であり、尺八では歌うように練習することが重要である。どんな曲を演奏する際にも、唱歌を頭に入れて演奏することが大切である。

和楽器には鑑賞会などで触れる機会があるが、実際に楽器に触れながら奏法や構造を学ぶ機会は少ないのでないかと考えられる。本研修会で学んだ各楽器の奏法や特徴、楽曲鑑賞のポイントなどを、教育現場における鑑賞指導に活かしていただけたと幸いである。

（文責 長谷川将也）

政策提言

政策提言として、2点を提示したい。

一点目は、「教員研修の機会の拡充」である。音楽授業における学習内容や教科書で取り上げられる教材が多様化するなか、教員自身も生の演奏を鑑賞したり、実際に楽器を手にして演奏したりするといった、教材そのものを体験、体感する機会が必要ではないだろうか。教員自身もさまざまな音楽の特徴やよさ、楽しさや奥深さを実感することによって、子どもにその音楽の何を伝えるのか、そのためにどのような教材研究が必要かといった、授業の質を向上させるための視点が自ずと浮かび上がってくると考えられる。教員自身の豊かなインプットの経験は、授業をとおして子どもたちに還元されるであろう。

教員研修の機会については、現在、小学校教員を対象とした研修会を夏休みに実施しているが、今後、東京藝術大学の人的、物的環境を活かしながら、対象とする校種や研修回数の拡充を図ることができたらよいのではないかと考える。

二点目は、「音楽科における小中連携」である。現行の学習指導要領においては、校種間の連携を図り、子どもの学びの連続性を確保することがより一層求められている。表現及び鑑賞の活動を繰り返しながら、継続的に学習を進めることにより資質・能力が徐々に身に付いていくという特質をもつ音楽科において、校種間の連携を考えることは重要な課題である。音楽教育の充実を図る上で、小学校と中学校の連携を強化し、音楽科教員同士の交流機会を充実させることは不可欠といえる。

具体的な方策としては、前述した教員研修会を小中合同で行う回を設けて、互いに学習内容や課題について情報交換を行い、子どもの音楽的な学びの系統性を検討していく機会があってもよいだろう。

また、将来的には大学や自治体と連携し、小中学校の教員が共同で音楽カリキュラムを開発するプロジェクトを立ち上げるなど、地域の資源を活かしながら子どもの学びを系統的に構築する取り組みも考えられる。

市川 恵
音楽学部准教授
音楽教育

足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究

アートリエゾンセンター

[研究代表者]

杉本 和寛 音楽学部長／音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸

[センター長]

田村 文生 音楽学部教授 音楽音響創造・作曲

[所属教員]

畠 瞬一郎 音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸（旧応用音楽学）

市川 恵 音楽学部准教授 音楽教育

古賀 慎治 音楽学部教授 器楽・トロンボーン

藤原 道山 音楽学部准教授 邦楽・尺八（都山流）

～センター所属スタッフ～

[研究員]

深水 悠子 音楽音響創造・作曲

[教育研究助手]

中村 栄宏 洋楽・リコーダー

長谷川 将也 邦楽・尺八（都山流）

東京藝術大学音楽学部アートリエゾンセンター（ALC）

〒120-0034 東京都足立区千住1-25-1 東京藝術大学音楽学部千住キャンパス

Tel : 050-5525-2744 Fax : 03-5284-1575

令和 6 年 3 月 31 日 発行

報告書編集 長谷川 将也

報告書印刷 よしみ工産株式会社

[ホームページ]

<https://alc.geidai.ac.jp>

